

中国福建省に眠る慶良間諸島の船乗りたち

前田 舟子（沖縄大学）

◎那覇から福建への唐旅

琉球は、中国（明朝・清朝）への朝貢（進貢）に際し、大唐船1隻と小唐船1隻の計2隻を福建の港へ派遣していた。この大唐船は、「一号船」または「頭号船」と呼ばれ、小唐船は「二号船」と呼ばれた。

進貢使節を率いる首里士族や、中国語（官話）を駆使して外交交渉を行う久米村士族たちは大唐船に乗船した。2隻の船にはそれぞれ、航海の指南役であり、操縦技術に長けた離島出身の船乗り（水主）たちが乗船していた。その水主たちについて、名前の記録がほとんどなく、彼らの素性や役割などの詳細は不明である。



ときに、水主たちが福建周辺の海域で座礁したり現地で病死したりすると、福建当局は彼らを該地に埋葬し、琉球人専用の墓園を建立した。その墓碑銘から、離島出身の水主たちの存在を知ることができる。

下の表は、2013年から2016年にかけて、沖縄県教育庁文化財課と福建師範大学閩台研究所が合同で調査した福建省内の琉球人墓碑の現存状況である。内訳は、阿嘉村1名、座間味間切慶留間村3名、渡嘉敷間切5名である。

1980年の調査	墓 碑 銘				2013～16年の調査
	出身	肩書	名前	没年	墓碑の設置場所
No.1	阿嘉村	大唐船水主	与那嶺仁屋	乾隆44年(1779)7月4日	福州辛亥革命記念館倉庫
No.2	座間味間切慶(留)間村	迎船作事	大城筑登之	嘉慶15年(1810)2月4日	(不明)
No.3	慶留(間)村	小唐船佐事	大城筑登之親雲上	道光22年(1842)11月2日	福建師範大学キャンパス内
No.4	座間味間切慶留間村	大唐船水主	新屋之仲村渠仁屋	道光29年(1849)2月17日	福州辛亥革命記念館倉庫
No.5	渡嘉敷間切渡嘉敷村	小唐船水主	小嶺	乾隆50年(1785)7月19日	福州琉球館
No.6	渡嘉敷間切	接貢作事	仲村渠筑登之親雲上	乾隆51年(1786)11月28日	福州琉球館
No.7	慶良間渡嘉敷間切渡嘉敷村	進貢小唐船佐事	小嶺筑登之親雲上	道光11年(1831)5月9日	(不明)
No.8	渡嘉敷間切阿波連村	大船定加子	玉城筑登之	道光27年(1847)4月13日	(不明)
No.9	渡嘉敷間切	(不明)	与那嶺筑登之	昭和11年(1936)合葬	(不明)

*1 表中の赤字は、1980年代調査データを2013年に確認し修正したもの。

◎墓碑

No.3 大城筑登之親雲上（福建師範大学）

寸法 (cm) 上幅: 44.5、下幅: 41、右高: 86.3、左高: 87.7、奥行: 5.5

キートン

大城筑登之親雲上 慶留村 佐事

在銘層 (銘文記載のまま)

道光二十二年

西暦年 月 日

1 8 4 2 - -

所蔵・所在 福建師範大学中琉関係研究所 福州市倉山区上三路32号

拓本

写真

翻刻

國 球 琉

長喜文五尺横登文

大城筑登之親雲上墓

〇〇〇〇佐事慶留村

〇〇〇〇道光二十二年〇〇〇〇

No.4 新屋之仲村渠仁屋（福州辛亥革命記念館）

寸法 (cm) 上幅: 42.5、下幅: 44.5、右高: 92、左高: 92.5、奥行: 9

キートン

慶良間慶留間村 仲村渠仁屋 大唐船水主

在銘層 (銘文記載のまま)

道光二十九年己酉二月十七日

西暦年 月 日

1 8 4 9 0 2 1 7

所蔵・所在 福州辛亥革命記念館 (福州市鼓楼区楊橋東路17号)

拓本

写真

翻刻

國 球 琉

新屋之仲村渠仁屋墓

切慶留間村大唐船水主

二月十七日卒座間味間

道光二十九年己酉

参考文献：①徐恭生（西里喜行・上里賢一訳）『中国・琉球交流史』ひるぎ社、1991年
②沖縄県教育庁文化財課『在外沖縄関連文化財調査－福建省琉球人墓碑編－』沖縄県教育委員会、2017年